

第13回 「三遠南信地域資料展」

テーマ：三遠南信の金と鬼

第13回を迎える「三遠南信地域資料展」は、「三遠南信の金と鬼」をテーマに、平成22年1月30日（土）から2月28日（日）まで、中央図書館2階展示コーナーで開催されました。パネルやパンフレットに加え、豊富な図書館資料や多くの民俗資料をもとにご紹介しました。また、初日には「三遠南信の鬼」をテーマに、恒例の「三遠南信を語る会」を開催し、3名の方が講演されました。

多数のご来館ありがとうございました。

【開催概要】

三遠南信（三河・遠州・南信州）地域は、民俗芸能の宝庫といわれ、国の重要無形民俗文化財第1号に指定された「奥三河の花祭・水窪の西浦田楽」をはじめ、「伊那谷の霜月祭、遠州川名・寺野のひよんどり」、「豊橋の鬼祭」など数多くの民俗芸能が継承されている。これらの祭には共通して鬼が登場するが、節分などの悪鬼のイメージはなく、善鬼として「五穀豊穰」や「除厄」といった人々の願いを叶える鬼様として伝えられている。

今回の資料展では、鬼を伝えた人々と豊かな民俗芸能の数々。そして、祭の根底にあるものを探り、三遠南信地域の人々の願いやこの地域の鬼の特質を図書館資料などにより分かりやすく紹介した。

また、一見無関係に見える「金と鬼」の関係についても、中央構造線の地質学的視点から明らかにし、多くの方にこの地域の歴史や民俗芸能に関心を持っていただく契機となれば幸いである。

【資料】

表紙

はじめのことば

鬼って何？

「鬼様」といわれる三遠南信の鬼

鬼を伝えた人たち

中央構造線

田楽

参考資料



◆「神々と里人との近未来への予祝の共演—新野雪祭—」

講師：伊東直幸氏（新野祭り街道の会事務局長）

◆「遠州の山谷に息づくひよんどりとおくない

—三遠交流の源流

を追う—」

講師：柴田宏祐氏（浜松市文化財保護審議会委員）

◆「花祭の鬼と安久美神戸神明社の鬼祭の鬼」

講師：山崎一司氏（民俗芸能学会評議員）